

TRICOLOR

クラブトータルリーグ について

昨年度よりスタートした「クラブトータルリーグ」が今年度も開催されます。

この大会は、複数のカテゴリーを統一組織として持つ県内のクラブチームが集まり、クラブ間の交流を図ることにより選手のレベルアップ及びクラブの発展を目指すことを主旨として行われます。

詳細は下記のとおりです。

大会期間	1/13(土)~3月末 詳細は予定表にてご確認ください
対象	小5・6/ジュニアユース/ ユース ユースは相手に応じて
試合方式	4チームによるリーグ戦後、順位決定戦を行う。 リーグ戦では小学生とジュニアユースの勝点の合計で順位を決定する。
その他	同日同会場にて小学生とジュニアユースの試合を行います。 小学生はジュニアユースのジュニアユースは小学生の試合を観戦します。 この機会に保護者の方々もお互いの試合を積極的に観戦して欲しいと思います。 この大会では、ジュニアユースの選手たちが小学生を妙蓮寺・試合会場間を往復引率します。
参加チーム (8チーム)	[Aグループ] フットワーククラブ(寒川町) FC緑(横浜市) かながわクラブ(横浜市) コミュニティFC(横浜市) [Bグループ] VERDY 相模原(相模原市) YSCC(横浜市) ID 大和(大和市) 原FC(横浜市)

大会・公式戦結果

【第8回かながわクラブ/
横須賀シーガルズ交流戦】

No.	対戦	結果
	U-12	1-5
	U-18	0-1
	O-30	2-2
	Top	3-2

Top

【横浜市民大会(一般の部)】

準決勝
vs 六浦 FC 3-1

Youth

【県 U-17 リーグ】

vs 横浜清風高 0-2

vs 大船高 1-1

【寒川招待】

予選リーグ

vs 有馬高 8-0

vs 法政二高 0-4

vs ヴェルディ 相模原 0-3

vs 湘南工大附高 0-3

順位決定戦

vs 寒川高 1-1(PK5-3)

vs 川崎北高 0-1

Junior Youth

【JFA プレミアカップ】

vs 大井町立湘光中学校 1-2

vs 綾瀬 FCJY 0-0

vs 横須賀シーガルズ 0-1

4チーム中第4位

小6

【県少年選手権大会】

1回戦

vs 崇善 FC 1-0

2回戦

vs 相武台 FC 1-0

小2

【花水 FC10 周年記念大会】

予選 C ブロック

vs 花水 FC-C 0-3

vs 金田 0-5

順位決定リーグ
vs 大野 0-0
vs ジュニオール 0-3
9チーム中第9位

Papas Rec

【県議長杯】

1回戦
vs 鎌倉四十雀 2-6

Papas Comp

【県議長杯】

1回戦
vs 緑ヶ丘サッカークラブ 1-1(PK1-4)

今、グラウンドでは・・・

Top

【謹賀新年】

あけましておめでとうございます！

最初に先月号にてお伝えした「横浜市民大会」の結果をお知らせしたいと思います。

12月3日(日)に三ツ沢陸上競技場で行われた準決勝戦で県1部リーグ2位の六浦FC相手に(かながわクラブは9位)3-1で見事勝利しました。

その結果14年ぶりの決勝進出が決まりました！決勝戦は3月末に三ツ沢陸上競技場で行われる予定です。前回の決勝では惜しくも敗れ、準優勝に終わっているだけに今回は大会初優勝を目指して頑張ります。詳細は決まり次第、お知らせしますので是非とも会場に応援に来てください！お願いします！

次に2006年最後の試合となったシーガルズ交流戦の結果をお知らせします。

前半を0-0で折り返した後半早々3点を先制し、楽な展開かと思われたところに反撃にあい、あっという間の2失点。結果3-2と勝利したものの集中力に課題の

残る試合になりました。

しかし2006年の最後を勝利で終われたことは良かったと思います。

さて、2007年になりTopチームは、甲府遠征などを含めゲームを積極的に行いチームのレベルアップを図っていく予定です。

2月から始まる神奈川県社会人選手権という天皇杯神奈川県予選出場権獲得をかけた大事な大会に向けて良い準備となるよう選手一同頑張っていこうと思います。

そんなTopチームですが、今年も応援よろしくお願いします！

(樋口 圭太)

Youth

寒川招待(1/6~8、有馬高校他)がなんとか終わりました。

初日は大雨で気温が低い中の2試合。

二日目はその影響により田んぼのようなグラウンドと強風の中での2試合。

三日目によく少しまとめた状況での2試合。

そんな中でも、本当によくがんばりました。もちろん物足りない部分はたくさんありますが、いつものようなサッカーをやらせてもらえない中で、どのように戦ったらいいのかの理解ができ、大きな収穫を得ることができました。

また、参加した選手は必ず起用し、経験を積ませることもできました。

いくつかの課題をはっきりさせることもできましたので、今後は重点的にトレーニングをしていきたいと思っています。さ、ガンバロー！！

(内田 佳彦)

Junior Youth

【JFA プレミアカップ】

12月から始まった「JFA プレミアカップ県大会」に参加しました。

この大会は、早生まれの中学2年生以下が対象でどのチームも基本的には中学1年生を主体としたチームで出場してきますが、かながわクラブはジュニアユースのメンバーに6年生の参加希望者9名を加えて参加しました。このようなことができるのもクラブチームならではのことだと思います。

さて、結果は4チーム中第4位と残念でしたが、内容は試合ごとに良くなり、また必ずしも良い条件とはいえない状況の中戦った3試合で選手たちの精神的な成長が見られたことは収穫だと思っています。

特に、精神面の成長は今後選手たちがプレー面で成長するにあたり不可欠な要素となるので、この経験が次につながるものと信じています。

しかし、その一方で「基本技術」と「勝負への執着心」という課題は残った大会でもありました。

6年生については準備期間を含めた2ヶ月間、ジュニアユースの選手たちと行動を共にすることでグラウンド内外において小学生年代との違いを肌で感じることができたと思います。公式戦に出場できなかった子もいましたが、そんな子たちも頑張ってくれてくれたと思います。

最後に、年齢の関係で試合に出場できなかった2名の中学2年生もチームに帯同し、バックアップしてくれたことに感謝しています。

(二木 昭)

小5・6

【県少年選手権】

1月7日からはじまった神奈川県少年サッカー選手権大会は、6年生にとっては最後の公式戦となります。この原稿を書いている時点ですでに2試合を消化しており、ここまで2連勝と最高の結果を残

してくれました。どちらの試合も気持ちのこもったプレーが随所に見られ、このチームが今まで課題としていた勝負弱さが嘘のような戦いぶりです。

やはり勝負事で一番大切になってくるのは、ハートです。絶対に負けないという気持ちでゲームに臨むことができれば、次もいい勝負ができると信じています。

【今取り組んでいること】

練習では、良い状態(前を向いて)でボールを持つことを伝えています。良い状態とは何なのか、なぜ前を向いてボールに触らないといけないのか。簡単に思えることほど練習を通じて習慣化させるのは難しく、また時間もかかってしまうものです。考えるサッカーの導入期としては最重要テーマの一つでもあるため、あせらずじっくりとすすめていきたいと思います。でもこの「前を向く」というテーマに限ると、5年生のほうが理解力があるように思えるのは気のせいでしょうか…。(鈴木 章弘)

小 4

【ごあいさつ】

昨年中は審判免許取得等、色々な面で保護者の方々にご協力いただきありがとうございました。本年もかながわクラブをよろしくお願いたします。

【リフティング】

昨年のクリスマスフェスタにてフリースタイルという最近流行り?の競技?をやっているお兄さんが来てパフォーマンスしてくれましたが、彼はナント!!2年前までリフティングが1回も出来なかったと言うのです!!ましてや、2年前までサッカーなんてやったことがないと言うんです!!2年間練習した成果が「あれ」でした。

コーチである私は31年間サッカーをやっているのに出来ないことだらけでした。自分もつくづく技術は努力と練習で身につけるものなんだな~と実感しました。

リフティングだけでなくドリブルやフェイントも自分で意識して練習しただけ上手く出来るようになると思います。スピードはゆっくりで構わないので正確に出来るよう日々練習できたら技術力が上がることでしょ。

【今だからこそ】

今までパスすることも選択肢の一つですよと言う意味で「パス」を強調してきましたが、相手を「抜く」、「かわす」と言ったことの重要性を忘れてはいけません。必ず必要な局面があるからです。相手から逃げてはいけません。現時点では、勝負して取られてしまうことを恐れずに必ずトライして欲しいと思います。年次が上げれば上がるほど「戦術」がチームを支配していきます。そこにはチームとしてのルールがあり、ドリブルで勝負できる地域も限られてきます。だから「今だからこそ!!」なのです。周りの状況を考え1対1になるときは積極的に勝負して欲しいと思います。

みんなの好きな、バルセロナのサッカーは確かにパスで繋いでいくサッカーですが、個人の抜く能力もトップクラスの選手ばかりです。また、大事な場面では必ずドリブルを仕掛けてチャンスを作っています。それを忘れずにトライして欲しいです。

【1月は】

1月は、練習試合が多いので、自分自身で1つ以上目標をもって望んで欲しいと思います。「試合中3回はフェイントで相手かわしてみよう!!」等、自分なりの目標で構わないと思います。必ず

できる日が来るはずですので頑張らしましょう。(益子 伸孝)

小 3

【1対1で負けない!!】

ウォーミングアップの後に4人対4人のゲームを導入してから、1対1から4対4へと徐々に人数を増やしていく練習の機会が少なくなりました。しかし、いくらサッカーが11人対11人のチームゲームだとしても、局面に注目すれば、基本はボール1個をめぐるの1対1ということになります。つまり、1対1において負けなければ(相手にボールを奪われなければ)、必ず試合では勝てることになるのです。

もちろん試合に勝つことだけが目的で「1対1に負けるな」ということではなく、個々の技術力を向上させるために、1対1に拘りたいのです。前回にも触れましたが、早めにポジションを決め、それぞれの役割だけを試合中に求めるやり方ですと、子供たちの無限の可能性を狭めてしまうことになりかねません。小学校の低学年から中学年までは、徹底的にドリブルに拘ること、相手を抜き去るフェイントに拘ること、自分でシュートを打つことに拘ること、言い換えれば1対1に拘ることで個々の技術力のアップを目指すべきではないでしょうか。

【本能的なプレーに伴う責任】

そしてもう一つこの年代で身につけて欲しいことに、「ミスした後は何をしたらよいのか?」ということです。サッカーは人間がほとんど生身の状態でプレーをします。どんなに用具が進歩しても、そして例えプロのサッカー選手といえども、必ずミスは起こります。前述のように小学生年代の子どもたちには、自分でボールを奪ったら、

徹底してドリブルをし、相手をフェイントで抜き去り、そして、シュートを打つというように、所謂「我儘に」、そして本能に任せたプレーをすることを奨励しますが、それだけでは本当に自分勝手に自己中心的な選手に育ってしまいます。

そこで、ボールを持ったら絶対に放さない気持ちでプレーをすることの裏側にはミスしたら、先ず自らが必ずボールを取り返しに行かなければならないという責任が伴うことを植えつけなければなりません。「取られたら、取り返す」のは当然のことで、ボールを持つ相手の最も近くにいるボールを取られた張本人が、先ずはディフェンスすることが大切であることを理解させたいものです。

【過渡期の難しさ】

現在の3年生の中には、パスをする大切さが少しずつ分かりかけてきた子どもたちと、そういった子どもたちを見ていて、なんとなく真似をしてみようかなと考える子どもたち、更にはまだまだドリブルをするのに精一杯の子どもたちが混在しています。前回も述べたように、基本的な技術(ボールを蹴る・止める・運ぶ)の習得なくしてパスはありえません。基本技術を習得する前に、ボールを持ったら先ず、パスする相手を探してしまうようで本末転倒です。またパスを自分の都合(タイミング)でしか出せないようでは将来につながりません。子どもたち個々のレベルを見極めながら、的確にアドバイスすることが重要になります。

練習や試合をご覧になって、ともすると指導者の言っていることに矛盾することがあると感じられるご父母の方がいらっしゃるかとも思いますが、26人の子どもたちがいれば26本の物差しを持って、子どもたち一人一人のレベルに合わせて、意識的に声掛けを変

えているからなのだというようにご理解いただければと思います。

(佐藤 敏明)

小 2

先日行われた花水FCの招待試合ではゴールこそ奪えませんでした。チーム全体が積極的にボールにプレーしていたように思います。

「ボールを持ったら自分でゴールまで持って行こう」これは1年生のころからずっと言い続けていることです。もちろん仲間と協力してパスをつなぎながら突破することも大切です。

しかし、今この時期にボールを持って自分で突破して積極的にゴールを狙う意欲や技術を身につけないと、後から練習しようと思っても大変な苦勞をしてしまいます。(私は身をもって経験しました。)

パスしかできない選手は相手にとってそれほど怖くありません。突破を狙っていくことによって後々練習していくパスが活きてきます。

「自分がゴールを決めるんだ!」という気持ちを持ってもらいたいと思います。

今年もたくさんサッカーを楽しみましょう!(井岡 靖貴)

幼児・小 1

【ボールを扱う】

最近は練習にちょくちょく出られるようになったので、先ずは一安心しております。そして、子供たちの様子を久しぶりに長く見ることが出来たのですが、皆、練習を楽しみに参加してくれている様に思えました。これまた一安心。

これからは、小野大コーチと相談して、ちょこっとずつボールを扱うという練習を入れていきたいと考えています。あまり強引にやりすぎるとつまらない練習になってしまう

ので、ちょこっとずつゲーム感覚で、ボールがある程度扱える様になると、サッカーは飛躍的に楽しくなります。剣玉で玉を乗せられるようになるのと同じような感じでしょうか?

本年は、「ボールがうまく扱える」と、こんなにサッカーは楽しくなる!」をキーワードに練習を進めていきたいなあ~と思っていますので、皆さん、御協力宜しく!!

あまりコーチをいじめないでね…。マオ君、りょう君、お願いします!

では、改めまして、本年もよろしく!! (お願いします…)

(川島 浩司)

Papas

新年明けましておめでとうございます。本年も怪我の無いよう壮年サッカーを楽しみましょう。

【新年度シニアリーグ参加】

19年度県シニアリーグへの登録はとりあえず終了いたしました。来年度は、新メンバーの参加を見て、Rec23名、Comp16名の体制で四十雀リーグ4部と2部に臨みます。どうぞよろしくお祈りします。また、審判の登録番号や最終更新年月日など追加のお問い合わせをいたしますが、ご協力よろしくお祈りします。

【マスターズリーグ参加見合わせ】

県サッカー協会主催「マスターズリーグ」(仮称)への参加につきましては、スタッフで協議を重ねた結果、シニアリーグへの出席状況などの現状などに鑑みて、当面参加を見送りといたしました。このリーグの活動状況などを見ながら来年以降検討してまいります。また、これに伴いまして2007日本マスターズ神奈川県予選会へも参加しないこととなりますので、あわせてご承知おきください。

(茅野 英一)

Mistral

はじめまして。

「Mistral」の最年少プレイヤー(既に 30 オーバーではございますが...)の斉藤です。背番号は、「18」。ポジションは...どこですかねえ(笑)。

わたくしが、チームに入って 8 年、サッカーを始めたのは、二十歳過ぎてからです。Jリーグが始まり、サッカーを見る・応援する側から、やってみたい側が変わってしまった一人です。実際やってみると、なかなかプロの選手のようにはいかず(目標が高すぎるっっちゃうねん)、でも少しでも近づきたくて、グラウンド以外でも練習してました。どうしたら上手くなるか、試合だけでなく練習も見に行ったり、本を読んだり、ビデオを観たり、自分なりに探求しました。おかげで、知識とイメージは、いっぱい頭に詰め込むことができました。経験年数を超えるには、「好きこそ物の上手なれ」この言葉を胸にまだまだ続けていきたいと思っております。

(斉藤 真理)

ヨーガ

明けましておめでとうございます。

お正月気分から抜けて、少しずついつものペースに戻りつつあるというところでしょうか。この年末年始も、それはそれは良く食べて良く飲んだ私です。恵まれた丈夫な胃腸に助けられて楽しい毎日でした。が、しかし、やっぱり暴飲暴食はいけませんね。胃も肝もお疲れの信号を送ってきているのを感じます。なんとなくお腹のあたりもプヨプヨしているような...

ヨーガでは「タミーハーラ」という言葉があります。日本語で言うとこ

ろの「腹八部」。万国共通の先人の知恵でしょうか。その黄金の言葉を知っていながら、先人と同じ轍を踏んでしまった私です。まだまだ修行が足りません。

こんな私ですが、今年もよろしくお願ひ申し上げます。

(伊藤 玲子)

理事長の戯言

今回のクラブワールドカップの運営でも、試合前のセレモニーのリハーサルを行いました。今回の私はバルセロナのキャプテン、プジョルの役。去年はジェラード役でしたから、今年も「それは私しかないでしょう」としゃしゃり出ていったのが見え見えます。

エスコートキッズに手を引かれ、いつもの FIFA ANTHEM にあわせてピッチに入場。VIP 席に向かって整列し、音楽の流れる中一人ひとりの選手の顔のアップの映像を映し出します。

そこでふと気づいたのが「自分たち選手役以外は全部本物なんだ」ということ。私と手をつないでいるこの小さな女の子も、場内放送をするアナウンサーも、旗を持っている少年たちも、その持っている旗も、テレビクルーも、何もかも本物です。当たり前のことなのですが、それを考えると少し感動します。この役こそ、将来のあるユース年代の選手たちにやらせたいと思ってしまう。そうすれば間違いなく、彼らの大きな目標になるでしょう。このリハーサルから世界大会に出場する選手が誕生。なんてすばらしいことでしょう。

しかし、6 歳とはいえ、エスコートキッズの女の子は本当に小さいんです。ピッチにのぼるまでの階段で転びそうになるし、歩幅が狭いので小走りにならないと前を行く審判団とは離れていってしまう

し...。そうするとそこでも転びそうになるし...

結局エスコートキッズをエスコートしてしまいました。本番ではプジョルがうまくやってくれればいいんだが、などという心配までしてしまう始末です。幸い選手たちは慣れていきますから、そんなことはぜんぜん問題にはならずとてもスムーズにできました。

決勝戦では選手整列後の曲が突然ブツリと切れ、場内からブーイングが起こりました。だれもがミスと勘違いしましたが、あれは FIFA からの指示によるものだそうです。激励の握手が予想以上に時間がかかったために、キックオフが遅れそうになったからでした。それでも若干の遅れはありましたが、なんとかかまとまりました。

ことは昨年のようにピッチに乱入する輩もおらず、大きな混乱もなく、わりと平穏無事に済んだ大会でした。

クラブの活動を休んでいる間にご協力をいただいた皆様、この場をお借りしてお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

(内田 佳彦)

